

平成29年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートはほとんどの項目で目標値を達成した。生徒対象「入学して良かった」、保護者対象「入学させて良かった」はそれぞれ95%、96%という高い肯定的回答を得た。 ・特色化事業への参加者は多くの事業で昨年度を上回り、各種取組を通して学問への興味・関心が高まるとともに国際理解が深まった。 ・遅刻者数、自主学習時間、授業満足度のいずれも目標値を達成した。 ・毎朝の教職員による校門指導、校内での普段からの声かけ、生徒会を中心とした各種取組等を通して、全体に規律ある学校生活が維持できた。 ・ボランティア活動に多くの生徒が参加し、人間的成長と進路実現に繋がった。 ・早期からの計画的な就職指導が功を奏し、公務員5名合格、民間企業就職内定率100%を達成した。 ・国公立四大へは推薦・AO入試14名を含め、延べ52名が合格した。 ・生徒による清掃点検等の取組を通して、美化意識の向上が見られた。 ・積極的なスクールカウンセラーの活用と情報共有により支援が必要な生徒等への対応が進んだ。 ・図書に親しむ活動が工夫され、来館者数・貸出冊数の増加に繋がった。 ・峰高だより、ホームページ、各種たより等、さまざまな広報活動を質・量ともに充実させ、家庭・地域への情報発信を積極的に行った。 ・各種行事に多くの保護者の参加があり、学校への関心の高さが窺われた。 ・産業工学科インターシップの充実、関連企業等と連携強化、弥栄分校との課題研究合同発表会の開催など、特色ある専門学科づくりが進展した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討 ・特色化事業の周知方法の工夫と多様な人材の活用 ・年度後半の遅刻増加傾向に対する対応 ・学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的方策 ・主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組 ・校内外の規範意識の更なる向上 ・部活動の加入率と定着率の向上及び学習との両立に向けた環境整備 ・学年部、教務部、各教科担当と連携強化した進路指導 ・日常指導における自尊感情の涵養と美化意識の更なる向上 ・図書館の多角的な利用の推進 ・タイムリーな情報発信に向けた体制整備と家庭・地域との更なる連携 ・アカデミック・インターシップ（大学進学希望者向けのインターシップ）の充実 ・産業工学科インターシップや課題研究の更なる充実と関係機関との連携強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1 希望進路の実現につながる質の高い学力の定着と課外活動との両立 2 地域との連携によるキャリア教育の充実と郷土愛の醸成 3 高い志と柔軟な国際感覚を持ち社会に貢献できる人材の育成

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
府立高校特色 化事業「グロ ーバルネット ワーク京都」	アカデミックミネ・プロジェクトに よる学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテストへの参加や検定受検、「科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。 【コンテスト参加、検定受検人数 延べ1000名以上】 【「科学の教室」参加人数 延べ140名以上】 【高大連携事業参加人数 延べ150名以上】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コンテスト等839名、「科学の教室」165名、高大連携事業への参加186名など概ね目標値を達成した。 コンテストの参加者は増えつつあるが、新しい入試制度における外部検定の位置づけが高まる中で、英検等の取組が必要である。 「科学の教室」に興味を持って参加する生徒を増やすために、生徒への呼びかけ方や、部活動や他の取組等と調整するなど、参加体制を検討をする必要がある。 地域活動参加事業数は昨年よりやや減少し77件にとどまった。各々の活動について、本場に役立つ活動を精選し、積極的な参加を促すことも必要である。 コンテストや地域活動に参加するだけでなく、自らの成長を実感できる振り返りや活動履歴の蓄積、参加生徒の活動報告や声等を紹介し、各種取組が身近に感じられるような工夫など、事後指導を充実させることが必要である。 	
	コミュニケーション・プロジェクトによるコミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生や企業人、留学生等と交流する。 	B			B
	コミュニティ・プロジェクトによる社会貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「地域活動100」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、参加を促す。 【地域活動参加事業数 100以上】 	B			B
学習指導	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教務部・学年部・生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て、始業5分前登校を徹底させる。 【1日平均遅刻者数6人以内】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 1日平均遅刻者数3.0人、10回以上の遅刻者0名と目標値を大きく上回った。5分前登校に対する意識の高まりは授業を大切にすることにつながっているが、「主体的学習態度の育成」に向けて、新たな観点から評価する段階にある。 自主学習時間は平均2時間8分で、2時間以上の学習時間が定着してきているが、学年・ク 	
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が積極的に参加する授業の実現に向けて、公開授業の在り方を検討する。 【自主学習時間1日2時間】 【授業アンケートで授業に満足全体平均3.2/4.0】 	B			B

						<ul style="list-style-type: none"> ラスによりばらつきがある。 「授業に満足」は平均3.4でここ数年ほぼ横ばい状態である。生徒が主体的に活動する授業を進めるために、新学力観に即した教科指導力を高めるとともに、図書館やICT機器の活用など環境整備を進めていく必要がある。
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査と毎朝の校門指導により、服装、頭髪指導を徹底し、あいさつの励行を促す。 【身だしなみ向上週間のチェック対象生徒 50名以内】 学年部をはじめ、関係分掌との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 【生徒指導部だより 年間20号以上発行】 【学年会での情報交換 年間8回以上】 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 「身だしなみ向上週間チェック生徒」は38名で目標値を達成できた。一部に指導が徹底できない場面も見られたが、校門指導をはじめとした様々な場面での指導により、生徒の身だしなみは大いに改善した。 「生徒指導部だより」は生徒向け37回に加えて教員向けを13回発行し、適時に指導指導上の課題等を情報共有することができた。 各学年の学年会に生徒指導部から4～6回出席し、情報交換を行った。また、問題事象に対しては個別に迅速な連携・対応を行うことができた。 新入生の部活動加入率は4月時点で82%であった。中学生から文武両道が可能な学校として評価され、部活動加入率が向上・維持できるよう、完全下校時間の徹底や、学校行事の再配置など、今後も継続して取り組む必要がある。 行事以外の生徒会主催の取組は7つ行った。掲示板の活用のように、生徒が主体的に発信できる工夫について指導が必要である。
	特別活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率を向上させるとともに、学習と部活動の両立ができる環境を作る。 【新入生部活動加入率 85%以上】 【19時30分完全下校の徹底】 生徒会主催の活動を活発化させる。 【学校行事以外の生徒会主催の取組 年間5つ以上】 	B			
進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学年部、教務部、各教科担当との連携を強化し、生徒個々の学力・希望の実態に即した指導を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 	A			<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者は推薦・AO入試8名を含め延べ42名、就職希望者はきめ細かな指導が実を結び、公務員3名を含め、年内に内定率100%を達成し

		【就職内定率 100%】	A	A		た。進路検討会は5回、進路担任面談は3回以上実施した。面談や個別指導等、生徒の実態に即した対応が就職・進学とも順調な進路結果に繋がっている。
		【進路検討会 教科担当者会議 年間5回以上】	A			
		【進路担任面談 年間3回以上】	A		A	
	キャリア教育の充実	・3年間を見通した系統的かつ体験的・実地的な活動を通して、将来を展望した主体的な行動を促す。 【進路ガイダンス・講演会 6回以上】 【進路体験活動参加 延べ100名以上】	A		A	・教科、分掌との情報共有等、さらなる連携の強化とともに、教職員それぞれが進路指導の機会を通して、指導力を高める組織的な取組が必要である。 ・高大連携においては、大学の研究者だけでなく本校の卒業生も含めた大学生や院生との交流など、生徒のキャリア発達を促す取組が有効であった。
人権教育	人権意識の向上	・すべての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 【〈生徒アンケート〉「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%以上】	A	A	A	・「人権を尊重する指導」の肯定率は93%で概ね良好であるが、人権学習の機会だけでなく、日常の指導の中で自尊感情を高め、他人を尊重する指導を継続的に行う必要がある。
健康・安全指導	教職員及び生徒の美化清掃へのさらなる意識向上	・清掃点検等生徒の委員会活動を活性化させる。 【〈生徒アンケート〉「美化、清掃が行き届いた教育環境」 肯定率85%以上】	A			・「美化、清掃」の肯定率は86%で、生徒による清掃点検は生徒の励みになっているが、一部清掃の行き届かない箇所が見られるため、清掃区画の再検討が必要である。清掃活動を行う雰囲気作りを継続して取り組む必要がある。 ・教育相談会議は10回実施し、個々の生徒の情報共有と丁寧な対応ができています。
	教育相談関係生徒の実態把握と適切な支援	・教育相談会議を適切に開催し、情報交換や支援の方法について協議する。 【定例会議 10回以上】	A		A	
図書・情報活動	図書館利用の増加	・図書館を活用した授業や進路学習を支援する。 ・生徒の図書館利用を促す。 【貸出数 一人年間3冊以上で合計2,500冊以上】 【利用者実数 350名以上】	B		B	・貸出冊数1.7冊、利用者実数は292人だった。読書の時間や図書に親しむ活動など工夫されているが目標には届いていない。探究的な活動など授業での活用や他の分掌との連携をさらに図る必要がある。 ・校内LANの重大事象の発生は0件であったが、課題は山積している。セキュリティに関する教職員の更なる意識向上が
	校内LANの適切な運用	・研修会等を通じて情報セキュリティー意識を高め、全教職員が機器と情報を適切に取扱う体制を作る。 【校内LANにおける重大事象の発生 0件】	A		A	

家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや「峰高だより」において生徒の活動を広く広報できるよう、情報の共有化を強化し幅広くタイムリーな発信を目指す。 【<保護者アンケート>「広報活動が充実」肯定率80%以上】 	A	A	A	<p>必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活躍を紹介する広報活動は質、量ともに充実している。今年度は新たに峰高インフォメーションが発行されるなど、中学生向けの広報に充実が見られた。 ・HPのCMS化やメール配信のあり方の見直しなど、よりタイムリーに情報発信できる体制整備が必要である。 ・PTA総会や面談、学校行事などへの保護者の参加が多く、学校への関心の高さが感じられる。 ・「広報活動が充実」、「家庭と担任や学校との連携」の肯定率も目標値を上回り、保護者からも一定の評価を得ている。
	地域・保護者・PTAとの連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等への積極的な参加を促す。 ・お知らせメールを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【<保護者アンケート>「家庭と担任や学校との連携」肯定率75%以上】 	A	A		
特色ある専門学科	地域連携の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、企業見学等により職業指導を充実させ、地域に根差した人材の育成に繋げる。 【2年生全員参加】 【事前・事後指導 5時間以上】 【地元求人 5社以上】 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは26社の受入企業の協力により全員参加で実施できた。 ・事前事後指導時間は、インターンシップが2時間、企業見学が4時間である。地元求人は8社で地元企業や関係団体との関係は良好に推移したが、より一層の連携強化が必要である。 ・京都産業21において24時間の実習を行なう校外実習を増加させ、最新の施設・設備を活用した技能習得につなげることができた。 ・会社見学先を見直すなど、製造業就職に向け生徒の意識づけにつなげる取組を進めているが、依然として就職希望が少ない現状である。外部機関との一層の連携が必要である。 ・出前授業をはじめ校外イベントにおいて学科紹介活動を推進することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・京都産業21、ポリテクカレッジ京都等近隣の職業訓練機関での実習を充実させる。 【20時間以上】 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> ・校外イベント等で学科の活動を展示・発表する。 【3件以上】 	A			

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の取組がしっかり行われており、学校運営が年々改善されている。 ・施設・設備の整備に向けて、学校が様々な面に対応されている。今後も引き続き学習環境の整備に努めて欲しい。 ・地域における活動をさらに推進するためには、生徒にその成果が見えるような工夫や、取組が評価されることが必要である。 ・大学等進学後、地元に戻るきっかけとなるような、高大連携や行政と連携した取組を進めて欲しい。 ・アカデミック・インターンシップのように、自らの将来に繋がるものであったり、興味をもって取り組むこと、努力することの大切さを学べるような取組をさらに推進して欲しい。 ・部活動が忙しくて、科学の教室などの他の取組に参加しづらいという声も聞く。部活動と学習との両立ができるよう、19:30の完全下校の徹底が望ましい。 ・図書館の充実が外への窓の役割としても大切である。自然科学や人文社会など、様々な分野の本を揃え、基本的な国語力の強化を図ることが大切である。 ・京都産業21など、充実した施設設備を利用した実習は重要である。今後も推進して欲しい。 ・最近、教職員の職場環境が社会の大きな関心事である。生徒に対して質の高い教育を提供していただくためにも、制度、意識両面から教職員の「働き方改革」を一層推進するよう働きかけて欲しい。
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;">【全 体】</td> <td>①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【特色化事業】</td> <td>②目標値の検討</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【学習指導】</td> <td>③生徒への周知方法の工夫と地域活動100への参加啓発</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【生徒指導】</td> <td>④卒業生・地域の方々をはじめとする多様な人材の活用</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【進路指導】</td> <td>⑤新しい学力観に即した探究的な学習の企画・運営と教育環境の整備</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【人権教育】</td> <td>⑥学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的方策</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【健康・安全指導】</td> <td>⑦主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【図書・情報活動】</td> <td>⑧校内外の規範意識の更なる向上</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【家庭・地域連携】</td> <td>⑨部活動加入率と定着率の向上</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">【特色ある専門学科】</td> <td>⑩学習との両立に向けた部活動の更なる工夫</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑪教務部・学年部・各教科等との更なる連携</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑫日常の指導における自尊感情の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑬美化意識の更なる向上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑭図書館の多角的な利用の推進</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑮教職員の情報機器に対するセキュリティ意識の向上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑯タイムリーな情報発信に向けた体制整備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑰家庭・地域との更なる連携</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑱アカデミックインターンシップの充実</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑲学科改編に向けた地元企業・諸団体との連携強化</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑳産業工学科インターンシップや課題研究の更なる充実</td> </tr> </table>	【全 体】	①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化	【特色化事業】	②目標値の検討	【学習指導】	③生徒への周知方法の工夫と地域活動100への参加啓発	【生徒指導】	④卒業生・地域の方々をはじめとする多様な人材の活用	【進路指導】	⑤新しい学力観に即した探究的な学習の企画・運営と教育環境の整備	【人権教育】	⑥学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的方策	【健康・安全指導】	⑦主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組	【図書・情報活動】	⑧校内外の規範意識の更なる向上	【家庭・地域連携】	⑨部活動加入率と定着率の向上	【特色ある専門学科】	⑩学習との両立に向けた部活動の更なる工夫		⑪教務部・学年部・各教科等との更なる連携		⑫日常の指導における自尊感情の涵養		⑬美化意識の更なる向上		⑭図書館の多角的な利用の推進		⑮教職員の情報機器に対するセキュリティ意識の向上		⑯タイムリーな情報発信に向けた体制整備		⑰家庭・地域との更なる連携		⑱アカデミックインターンシップの充実		⑲学科改編に向けた地元企業・諸団体との連携強化		⑳産業工学科インターンシップや課題研究の更なる充実
【全 体】	①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化																																								
【特色化事業】	②目標値の検討																																								
【学習指導】	③生徒への周知方法の工夫と地域活動100への参加啓発																																								
【生徒指導】	④卒業生・地域の方々をはじめとする多様な人材の活用																																								
【進路指導】	⑤新しい学力観に即した探究的な学習の企画・運営と教育環境の整備																																								
【人権教育】	⑥学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的方策																																								
【健康・安全指導】	⑦主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組																																								
【図書・情報活動】	⑧校内外の規範意識の更なる向上																																								
【家庭・地域連携】	⑨部活動加入率と定着率の向上																																								
【特色ある専門学科】	⑩学習との両立に向けた部活動の更なる工夫																																								
	⑪教務部・学年部・各教科等との更なる連携																																								
	⑫日常の指導における自尊感情の涵養																																								
	⑬美化意識の更なる向上																																								
	⑭図書館の多角的な利用の推進																																								
	⑮教職員の情報機器に対するセキュリティ意識の向上																																								
	⑯タイムリーな情報発信に向けた体制整備																																								
	⑰家庭・地域との更なる連携																																								
	⑱アカデミックインターンシップの充実																																								
	⑲学科改編に向けた地元企業・諸団体との連携強化																																								
	⑳産業工学科インターンシップや課題研究の更なる充実																																								